

アイヌタイムズ 第66号 日本語版

★ アイヌ語入力プログラムのお話

北海道新聞の記者が、私にインタビューしました。2016年11月11日(金)の北海道新聞朝刊の文化欄で、それが小さい記事になりました。

2003年にMac OS X 10.3で開発されたアイヌ語入力プログラムに私たちは協力しました。その記事は、その話です。その記事のコ

ピーが、第65号のアイヌタイムズに同封していたと思います。記事の中では、Apple社へ英文の要望書を出したと書いてます。しかし、間違って書いているようです。

私は、アイヌ民族の萱野志朗さんに協力をして、Microsoftの会長であったビル・ゲイツの財団に英文の要望書を提出しました。アッ

プル社には英文の要望書は提出していません。

ビルゲイツ財団がアメリカの先住民に助成しているという話を、萱野志朗さんが北大の先生から聞きました。そして、2008年に、アイヌ語のテレビを作れないかという要望とAppleで開発してくれたアイヌ語入力プログラムと同様のものがWindowsでも作れないかという要望書をビルゲイツ財団へメールで提出しました。私が英語で要望書を作り、アメリカ人の大学教授に直してもらって提出しました。

しかし、ビルゲイツ財団からは、これより優先するものがあって、この案件はそれに該当しませんという返事がありました。ご協力はできないが、がんばってください、このお話は終わりです。

この時は、文字コードに関する記事を書いていたフリージャーナリストの小形さんが、Apple社の人たちを私たちに紹介してくれました。その人たちは、木田さんたちですが、日本語入力プログラム「ことえり」を作っていました。

私のアイヌ語教室の先生でもある奥田先生と大学院生とアイヌ語ペンクラブの大野さん達と一緒にアイヌ語入力プログラムのアドバイスをしました。奥田先生は、著名なアイヌ語研究者です。

奥田先生が一度Apple社に訪問しました。その後、ずいぶん長いメールのやり取りをして、プログラムが完成しました。私たちは、その時、Apple日本法人と秘密を守るという契約をして、Mac OS X 10.3でアイヌ語入力プログラムを完成させました。

Mac OS X 10.9までは、ことえりの中にありましたが、Mac OS X 10.10からはアイヌ語入力が日本語入力から独立しています。

Apple社で売れ筋のiPhoneやiPadの基本ソフトであるiOSです。この中の言語選択でアイヌ語を選択できますが、Mac OS XやmacOS 10.12 Sierra と違いアイヌ語入力プログラムはないようです。

また、Mac OS X 10.3が発表された(2003年)前の、2000年にコンピュータで使用されるJISの中の文字コードが新しくなり、アイヌ語の音節末の子音を示す小さなカタカナも採用されました。

1996年7月に日本規格協会はJIS漢字を広げる計画を公開しました。この時、アイヌ語ペンクラブの稲垣さんという人が、アイヌ語を書くときに使う文字を、新しい規格に加えて欲しいと、委員長である芝野耕司氏に要望しました。その要望に前向きに返答し、北海道大学文学部の佐藤知己氏を委員会に招き、アイヌ語で用いられた文字についての説明を受けました。そして2000年に新しいJIS規格ができました。

2002年に世界共通の文字コードであるユニコードがバージョン3.2になり、このユニコードにアイヌ語に用いられた文字も採用されました。

現在は、Windows、Macともにアイヌ語用の小さなカタカナを使えるようになりました。しかし、キーボードを打って、上手にアイヌ語ローマ字からカナ入力できるコンピュータはMacだけです。Windowsでは、文字を一つずつ選び、使いづらいものとなっています。2016年から、Mac OS Xは、macOSに名前が変わりましたが、アイヌ語入力は以前と同様です。

[横山 裕之] 沙流・千歳